

11 コンフューザーPを利用したナシ害虫防除体系

福島県果樹試験場病理昆虫部
平成10～11年度試験研究成績書
分類コード04-03-23000000

部門名 果樹－ナシ－病害虫
担当者 阿部憲義、荒川昭弘、岡崎一博

I 新技術の解説

要旨

- (1)モモ及びナシ用の複合交信攪乱剤(コンフューザーP)が、平成10年1月に登録されたことから、本県ナシの害虫防除において、本製剤を基幹防除剤として、殺虫剤の使用回数を削減し、散布者並ひに環境にやさしい殺虫剤の散布体系を策定した。
- (2)ハマキムシ類の越冬世代成虫が発生する直前の5月中旬に、コンフューザーPを10a当たり150本の割合でナシ棚面に設置することにより、通常の害虫発生量のナシほ場においては、慣行の防除体系より3～4回の殺虫剤の削減が可能である。
- (3)本交信攪乱剤はモモンソクイガに対しては安定した防除効果が期待できるが、近年増加傾向にあるナシヒメソクイの後世代(3～4世代)に対しては防除効果が不安定なので、殺虫剤による補完散布が必要である。
- (4)リンゴコカクモソハマキに対する交信攪乱効果が不安定なので、第2世代幼虫期(7月下旬)に本種対象の殺虫剤を散布し、その後(第3世代幼虫)の被害を回避する。
- (5)5月下旬～6月上中旬にアブラムシ類が増加するので、アブラムシ類防除剤を散布する。
- ⑥6月～8月の長期にわたってシャクトリムシ類による新梢葉の食害がみられるが、果実の被害は認められないことから、他の害虫との同時防除で対応可能である。
- (7)‘幸水’は夏季高温時に葉やけ症状が生じやすいので、殺ダニ剤を的確に散布する。ただ、‘幸水’以外の品種ではカブリダニの利用が期待できるので、カブリダニに対し影響の少ない薬剤を使用し、天敵保護を考慮した防除を心がける必要がある。

2 期待される効果

- (1)生産者の殺虫剤被曝量を軽減できる。
- (2)消費者が求める、化学合成薬剤の使用量を軽減した果物を供給できる。
- (3)本県産果物のPRに寄与できる。
- 〔4〕環境負荷を軽減した栽培が可能になる。

適用範囲

県内全域。ただし、ナシ園が3～4ha以上の面的広がりのある地域。

普及上留意点

- (1)カイガラムシ類が増加傾向にあるので、今後の発生推移を注視し、防除の要否を判断する。
- (2)実施に当たっては、指導機関と一体となった取り組みが必要である。

II 具体的データ

表1 複合交信攪乱剤を利用したナシ害虫防除体系

回数	散布時期	対象害虫名	殺虫剤名	希釈倍数	毒性	備 考
1	発芽10日前まで	樹上越冬害虫 アブラムシ類 カイガラムシ類	石灰硫黄合剤	10倍	普 A	カイガラムシ類の寄生状況をよく観察する
2	発芽10日後 4月上旬頃	ハマキムシ類 アブラムシ類	ダズバン水和剤 または 毒 ラービンフロアブル	1,000倍 750倍	劇 C 劇 B	
3	落花直後 4月30日頃	アブラムシ類	キルバール液剤	1,500倍	劇 A	
4	落花1週間後 5月7日頃					アオムシ・ケムシ類が多い場合はディブデレックス乳剤 1,000倍 (劇 B) を散布する。
5	5月15日頃	(ナビメジクイ) (アオムシ・ケムシ類) モジクイガ ナビメジクイ ハマキムシ類	コンフェューザー P	150本処理	普 A	ハマキムシ類の越冬世代成虫が羽化する前までにその高さの設置する。その他処理条件および注意事項を厳守する。
6	5月22日頃	(ナビメジクイ) (アブラムシ類) (アオムシ・ケムシ類)				アブラムシ類やアオムシ・ケムシ類が多い場合はオリオン水和剤 1,000倍 (劇 B) を散布する。
7	6月10日頃	アブラムシ類	アドマイヤー水和剤	2,000倍	劇 A	かけむらがないように十分量散布する。
8	6月20日頃	(ハマキムシ類) (ツクシムシ類)	(殺虫剤省略)			
9	6月30日頃	(ハマキムシ類) (ツクシムシ類)	(殺虫剤省略)			
10	7月10日頃	モジクイガ ナビメジクイ ウツギカイガラムシ (※ハダニ類)	スブラサイド水和剤 または 毒 モスピラン水溶剤	1,500倍 4,000倍	劇 B 劇 A	ハダニ類の寄生が見られる場合は殺ダニ剤を散布する。見られない場合には今回の散布を先送りする。
11	20日頃	ハマキムシ類 アオムシ・ケムシ類	(殺虫剤省略)			
12	8月5日頃	モジクイガ ナビメジクイ ハマキムシ類 ※ハダニ類	オリオン水和剤 または 毒 アタプロン SC または 毒 ラービンフロアブル 殺ダニ剤	1,000倍 3,000倍 750倍	劇 B 普 A 劇 B	中晩生種のハマキムシ類による被害に注意する。
13	9月上旬頃 (中晩生種)	モジクイガ ナビメジクイ	ダイアジノン水和剤 または 毒 ラービンフロアブル	1,000倍 750倍	劇 B 劇 B	中晩生種のナビメジクイの発生に注意する。

注1) 福島県果樹試験場(品種: '幸水' 満開4月29日, '豊水' 満開4月25日)を標準とした。

注2) 実践するにあたって、各地域の害虫発生活動に合わせ補完防除を行う。なお、殺菌剤との混用には十分に注意する。

注3) ハダニ類の防除には、その種類および寄生密度をよく観察し、適切に行うこと。

注4) 蚕毒は、蚕毒日数60日を超える殺虫剤を示し、使用規制地域では使用できないので十分注意する(合成ピレスロイド系殺虫剤等の安全使用に関する指導方針、県防除基準参照)。

Ⅲ その他

(1) 執筆者: 阿部 憲義、荒川 昭弘、岡崎 一博

(2) 主要な参考文献・資料: 平成10～11年度試験研究成績書